

天沼中だより

令和3年7月9日（金）

杉並区立天沼中学校

杉並区本天沼 3-10-20 3390-0161



メモリアルガーデン
70周年記念植樹のオリーブ

さりげない行動

校長 松尾 了

6月30日から7月2日まで、3年生の修学旅行を実施しました。修学旅行先の京都・奈良方面は、天気予報では3日間とも雨の予報でしたが、昼間の行動中に支障がでるほどの悪天候にはならず、滞りなくすべての行程を実施することができました。生徒たちは3日間、仲間と寝食を共にし、古都の文化を直接感じ、多くの人と出会い、現地でしか体験できないことを通じて、多くの発見と有意義な経験を積むことができました。保護者の皆様におかれましては、修学旅行の実施にあたりご不安やご心配がある中でもご理解とご協力をいただきましたこと感謝申し上げます。ありがとうございました。修学旅行での出来事を学びに変えること（3年生の皆さんには修学旅行閉校式でお話をしましたので、気になる保護者の方は、お子さんに聞いてみてください。）で、3年生のさらなる飛躍を期待しています。



さて、先月のことですが、近隣の方から学校に電話をいただきました。内容は、本校生徒へのお礼の電話でした。「目的地までの道が分からなくなっていたので、たまたま近くにいた子に声をかけたところ、目的地まで子どもたちが同行し、案内してくれたのでぜひお礼を言いたくて」という、電話でした。

この話の他にも、同じように街の人へ親切に接してくれた天中生がいるという話が寄せられ、私はとてもうれしく思いました。

天中では、先日発足式があった中学生レスキュー隊への参加を始め、エコキャップ運動や募金活動など、様々な「地域とも関わるボランティア活動」を行っています。学校だけではなく、ご家庭や地域の皆様からのお声かけとご協力をいただきながら、多くの生徒がこれらの活動に参加してくれています。これらの活動を通して生徒の中に「地域の一員としての自覚」や「ボランティアシップ」が育まれているからこそ、目立たないところでも、さりげなく、困っている人を助けたり、大変そうな人をお手伝いしたり、素敵な振る舞いができたのではないかと改めて感じました。

地域貢献やボランティア活動という言葉を見ても、リサイクルや募金などといった活動を組織的にみんなで行うことがイメージされやすいと思います。ですが、誰に見られていなくとも、道に捨てられていたゴミを拾って近くのゴミ箱にそっと捨てたり、一人で泣いている小さな子に優しく声をかけたり、こんな＜さりげない行動＞も「地域の一員としての自覚」や「ボランティアシップ」の現れではないかと考えています。

今回、私がうれしかったのは、電話をいただいたことがうれしかったのではありません。天中生の地域の一員としての自覚やボランティアシップを、気持ちだけで終わらせずに、＜さりげない行動＞として現してくれたことが、とてもうれしかったのです。

今後も、生徒の「地域の一員としての自覚」や「ボランティアシップ」を育むために、保護者、地域の皆様の温かいご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

3年生 修学旅行 6/30～7/2

奈良から京都に入り、宿舎である知恩院和順会館に無事到着。ロビーのウェルカムボード。いつもどおりの光景なのに、今年は「歓迎」の文字を見て、やけに嬉しい気持ちがこみあげてきました。



写真を見れば、例年通りのあたりまえの修学旅行風景に見えます。実は、ここに来るまでの不安や「もしも」のことを考えての次善策を何回も練り直した苦労や工夫の数々、生徒の皆さんに強いなければならなかった「がまん」など、紙面では表せないものがありました。保護者の皆様のご心配も図りしれないものがあつたかと思います。

生徒の皆さんは、帰京後、それぞれ生き生きした感想を作文に書いてくれました。特にこのご時世、ようやく実現できた宿泊行事に生徒の皆さんがどんな思いで参加していたかの分かる文章をご紹介します。

(国語科による「書き出しの工夫」指導のため同じ冒頭になっています)

「優しい都」

何てこった。こりゃあ大変だ！心臓の音が周りの音をかき消す。それほど焦っていたのは、道に迷ってしまったからだ。京都は由緒正しく道が碁盤の目になっている。だから東京では何気ない路地でも京都では角一つ曲がると見慣れない景色が広がっている。そのせいで動けば動くほど元の道が分からなくなってしまうのだ。

半ばあきらめかけていた時、一人のおじいさんが話しかけてきた。「清水寺に行くならあの信号を超えて…」なんとも親切な話し方だった。今まで自分が思っていた「京都はお高い人がたくさんいる」という固定概念を打ち壊すようなものだった。

この件だけではない。コロナ禍で思うように営業が延びず、ストレスを抱えているお店の人やホテルの人みんながやさしく接してくれた。いつしか僕にとって京都は「気遣いのできる優しい人がたくさんいる」というイメージに変わっていた。

しかしこのままで終わってはいけない。なぜなら自分たちも京都の人たちのように優しく気遣いのできるようにならないといけないからだ。将来自分が困ったときに助けてくれる人はいるだろう。しかし、自分もいつか人を助けられるようになればよいと思った。あの京都の優しい男性のように。

「感謝」

何てこった。こりゃあ大変だ！私は修学旅行が始まる何週間か前にテレビの前でそう思った。「緊急事態宣言が解除され、まん延防止措置に入ります。」ニュースのアナウンサーがそう私たちに伝えてきたのだ。まん延防止だと、行けるのか？私はとても焦った。しかし、次の日に学校に来て中止の紙が来ない。これはもしかして行けるのか！！と、焦りからわくわくした気持ちになった。

修学旅行当日、私たちはなんとか修学旅行に行けるようになった。ここにたどり着くまでにいろいろな人が頑張ってくれたのだと思うと感謝してもしきれないくらいの気持ちになった。そして、奈良に着き奈良公園に行って鹿と遊びあと少しで1日が終わろうとしていた夕飯の時、先生は私たちに注意した。「食べた後でも給食の時みたいに静かにしていきましょう……。」私はその時、このコロナというたいへんな状況の中で来ていることを思い出した。前のフレンドシップスクールとは違うんだ。みんなでわいわい楽しく食べられないんだ。少し悲しい気持ちになった。しかしこの世の中では修学旅行が中止になってしまった中学校もある。行けただけでも感謝しようと思った。先生たちが頑張らなかつたら、私たちも中止になっていたかもしれない。本当に本当にありがとう。3日間の修学旅行は無事終わった。

杉並区中学生レスキュー隊発足式・第一回合同訓練 7/4

今年度も天沼中レスキュー隊は89名が応募しました。昨年度はほとんど活動ができなかったのですが、今年度は「発足式」「第一回合同訓練」が、23中学校から各校5人までの制限の中で開催されました。

天沼中からは、各学年の隊長、副隊長の岩崎くん、高瀬くん、大島さん、永井さん、鈴木さんが代表で参加し、今年度新規加入者代表として永井さんが壇上で教育長からレスキュー隊キャップを受け取りました。発足式のあと、地域の消防署、消防団の方、防災課の方などのご指導により、AED、心肺蘇生法、ガスの復旧訓練、車いす訓練などが行われました。

ご講話では、「東日本大震災の津波が起きたとき、率先して中学生が小学生の手を引いて高台の避難所に逃げているのを見て、地域の方も逃げ始めた。」という話や、「阪神淡路大震災のとき、ある避難所では、一日一食の弁当で19日間しのいだ。その弁当の配布は、途中から中学生が請け負ってくれた。中学生ががんばっている姿を見て、避難している人みんなが励まされ、中学生に文句や無理を言ったりするわけにはいかない、と、みんなで我慢し合うことができた。」というようなお話がありました。生徒の皆さんの心に残ったようです。

災害時の中学生、高校生の役割は大きいと言われています。レスキュー隊に志願してくれた皆さん、訓練がなかなかできなくても日ごろから災害への心構えをもって生活してほしいと思います。



1 年生口腔保健指導 6 /24

昨年度は実施できなかった授業です。今年度も歯ブラシや染め出し液を使っの体験はできませんでしたが、エアー歯みがき等、歯科衛生士の方々にご指導いただきました。



東京オリンピック代表決定 **がんばれ！** 柊木結花先輩！

平成 21 年～23 年、天沼中学校に在籍中からプロのサッカーチーム、日テレベレーザで活躍、平成 24 年からサッカー女子日本代表として活躍してきた先輩です。先日、オリンピック日本代表メンバーに選出されました。

平成 29 年にはなでしこジャパンでデビュー。そのころから、年に 1 回、天沼中の先輩として、学校を訪問してくださり、一緒にゲームをしたり、トークをして下さったりしていました。(青空フィールドには記念植樹の「まんさく」が育っています) 令和 2 年(2020 年)からは、アメリカ女子サッカーリーグの OL Reign に移籍、海外で活躍しています。右は、令和 2 年 2 月に天沼中に来てくださったときの写真です。



「来年は金メダルをとって、また天中に来ます！」と言ってくださっていました。昨年、オリンピックが延期になっても何事も前向きにとらえて自分のなすべきことを開拓していた姿には感動しました。サッカー選手としての活躍だけでなく、「サッカーを通じて日本を変えていきたい」という思いをさまざまな場面で発信しています。



今は大きな声で直接応援することはできないオリンピックですが、心から柊木先輩の努力を称え、静かに応援したいと思います。サインの右下、背番号 10 番をなでしこジャパンでも背負います。

さりげない親切の紹介

6 月 10 日、校長先生の文章に登場する、「車いすの高齢者の方をご案内」してくれたのは、3 年生の 4 人でした。

また、1 年生の 4 人の生徒も、同じ時期に自転車の高齢者の方を旧若杉小まで案内してくれたようです。ワクチン会場に向かう方が道に迷うことが多いのかもしれません。きっとほかにも、そんな例がたくさんあるのでしょうね。中学生のやさしさが、時代を明るくしてくれます。心からありがとう、と言いたいです。

★お知らせとお願い★

明日の土曜授業公開は、生徒一人につきお一人までの人数制限をさせていただきます。お配りした時程で、何時においでいただいてもかまいません。ご協力のほどお願いいたします。

緊急事態宣言の再発出というニュースが流れております。今後の行事等の変更については、来週確定し次第、お知らせいたしますので、もうしばらくお待ちください。

天中 CS コーナー

昨年度はコロナ禍で実施を見送りましたが、今年度は「四者合同研修会」を開催できることとなりました。四者とは、「保護者」「学校支援本部」「教職員」と、「学校運営協議会＝CS」のことです。毎年、テーマを決めて話し合ったり、コミュニケーションゲームをしたりなど、相互理解を深めて子どもたちの成長のための機会としています。今年度は 7 月 16 日(金) 12 時 30 分 から開催します。スクールカウンセラーの那須先生、石澤先生においでいただき、今の天中生の抱えている問題についてお話も聞けます。保護者の皆様のたくさんのご参加をお待ちしています。

CS の次回会議は、7 月 16 日(金) 14 時 30 分 から、「四者合同研修会」の終了後となります。傍聴予定の方は、変更時のご連絡のために事前に副校長にご連絡ください。